

青ネギの作付計画策定支援システム

試験研究計画名：産地間連携による青ネギ周年安定供給のための生産予測・出荷調整支援システムの開発

地域戦略名：気象変動に対応した青ネギの周年安定出荷・安定販売

研究代表機関名：(研) 農研機構野菜花き研究部門

地域の競争力強化に向けた技術開発のねらい：

定時・定量出荷が求められる加工業務用青ネギの契約栽培では、天候不順による予期せぬ収穫量の過不足は圃場廃棄や市場調達をもたらす、経営的なリスクとなります。複数の地域で経営を展開するような大規模法人では、青ネギを安定的に周年出荷するために、適期に適量を作付けしていくことが重要となりますが、多数ある圃場の作付計画の策定には経験や多大な作業時間を必要とします。

そこで本課題では、青ネギの生育シミュレーションモデルを活用して、生産と出荷計画の策定を支援するシステムを開発しました。

開発技術の特性と効果：

本システムでは、地域ごとの予め計画された年間の月別販売計画量と1か月間に定植可能な面積の上限値を入力することで、年間の必要定植面積、収穫量、生産過不足量の月別予測値等を瞬時に試算することができます。これによって年間作付け計画を効率的に策定することが可能となり、また、試算したこれらの情報を生産から販売までの関係者間で共有することで、的確な出荷契約を確保することが可能です。

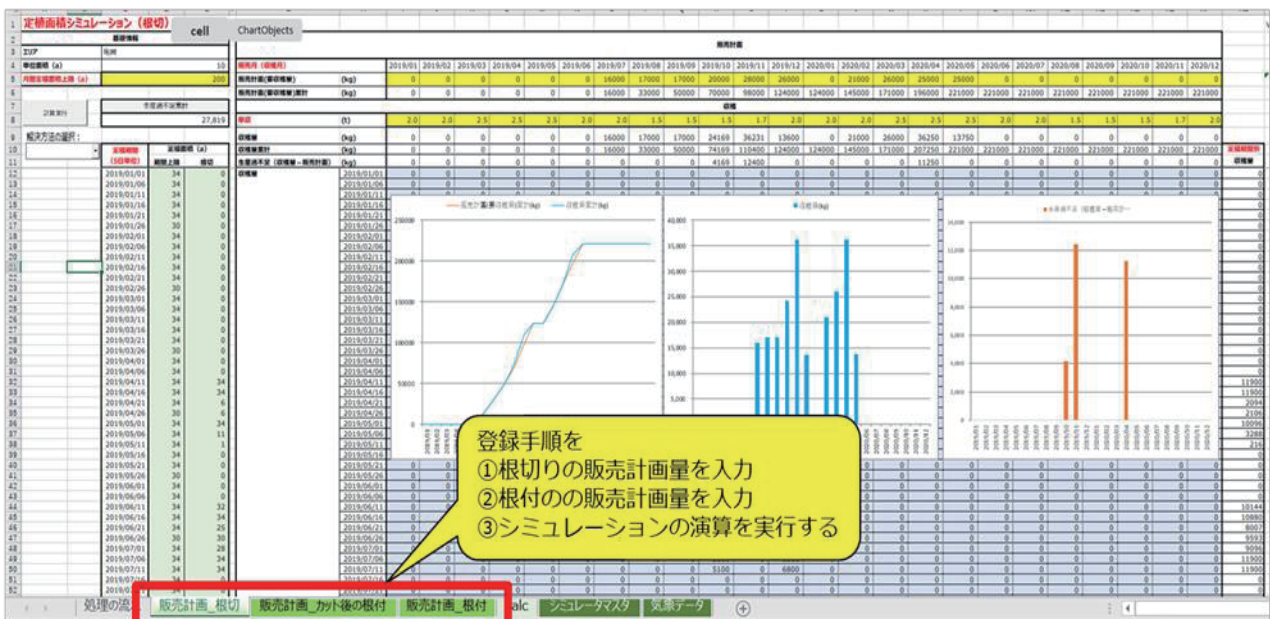


図 作付計画策定支援システムの設定画面

開発技術の経済性：

本システムは上記生産予測・出荷調整支援システムのオプション機能として民間企業から提供する予定で、利用費は生産予測・出荷調整支援システムの利用費に上乗せで含まれます（生産規模に応じて15万円～/年）。

こんな経営、こんな地域におすすめ：

葉ネギの周年生産に取り組む生産法人、葉ネギの集出荷を行う農協および中間事業者等

技術導入にあたっての留意点：

本システムは、生産予測・出荷調整支援システムのオプション機能になります。また、青ねぎの生育は品種ごとに異なりますので、使用するネギの品種に合わせた生育モデルを調整する必要があります。

研究担当機関名：（研）農研機構野菜花き研究部門、イーサポートリンク（株）

お問い合わせは：イーサポートリンク（株）

E-mail PR@e-supportlink.co.jp

執筆分担（（研）農研機構野菜花き研究部門 佐藤文生）